

IX 各学科の概要

[1] 海洋科学科

1 基本方針

- ①海技士養成施設、及び小型船舶操縦士養成施設として、将来の海洋関連職業を担う後継者育成のための指導の強化を図る。
- ②水産・海洋関連学科としての専門性を活かした進路指導の充実を図る。
- ③各類型の教育課程と関わる学習の充実と関連する資格取得のための強化を図る。

2 類型の方針

① 海洋技術類型

船舶の航海、運航に従事する技術者の育成を目指す。

「航海・運用・法規などを学習し、天体を利用して船の現在地を求め、レーダーや GPS などの機器の取り扱い方法を習得させ、船の運航術など船舶の船長、航海士に必要な知識と技術を学ぶ。」

② 機関技術類型

船舶機関の操作、運転保守に従事する技術者の育成を目指す。

「船舶機械、発電機、冷凍機、電動機、ポンプ類の取り扱いや操作の方法や、機械設計工作（旋盤・フライス盤を使用した設計・工作、ガス・アーク・Tig 溶接）など、機関長、機関士に必要な知識と技術を学ぶ。」

③ 沿岸技術類型

地域漁業・海運、関連産業に従事する技術者の育成を目指す。

「小型船舶運行及び沿岸漁業の知識を習得し、周辺海域における沿岸漁業及びアーサや海ぶどうなどの栽培漁業などを学び、水産業の後継者としての技術を学ぶ。」

3 育てたい生徒像

- ① 専門分野に関する基礎・基本的な知識と技術を身につけ将来の海洋・水産業で貢献できる生徒。
- ② 航海技術、機関技術、沿岸漁業に関心と目的意識を持ち専門分野に誇りをもって取り組む生徒。
- ③ 海洋・水産関連の課題や問題についてグローバルな視点で問題解決に取り組むことのできる生徒。

4 今年度の目標

水産・海洋を取り巻く状況や本県の地域的特徴を踏まえ、海洋資源の開発と保護の確立を図ると共に、海洋技術、機関技術並びに沿岸漁業に関する知識を習得させ、関連産業の一役を担う人材を育成する。

5 目標達成のための手立て

- ①海洋調査、海洋実習を通し海への関心を持たせ、生徒が自主的・主体的に授業や実習に取り組む実践的な態度を育てる。
- ②指導に当たっては、海、水産物、船舶の全体を概観させると共に、関心や目的意識を高め、学習への意欲を喚起させ、将来を見据えた資格取得に積極的にチャレンジできる指導を行う。
- ③職員の具体的な体験を通し、水産業や海運関連の重要性を理解させ、これらの産業に従事する者として責任を学ばせ、卒業後の進路とも関連付ける指導を行う。

6 資格・検定

海技士（航海・内燃機関）、一級小型船舶操縦士、特殊小型船舶操縦士、潜水士、スクーバライセンス 2 級ボイラー取扱者、危険物取扱者（丙・乙）、ガス・アーク溶接作業従事者、エンジン検定 2 級等

[2] 生物生産科

1 基本方針

- ①学科職員の協力態勢のもと、地域に根ざした専門教育を推進する。
- ②農場及び施設の有効活用に努める。
- ③関係機関との連携を図り、生徒の意欲向上に努める。

2 類型の方針

①植物生産類型

- ・栽培作物を中心に、植物の増殖能力の利用に関する資質・能力を身に付けさせる。
- ・植物（農業作物）に関する知識・技術を実践的・体験的な学習活動を通して、生産と経営に必要な資質・能力を身につけさせる。

②動物生産類型

- ・畜産経営を主とした家畜の飼育、農業機械、畜産加工の知識と技術について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。
- ・畜産の社会的な役割を理解させ、習得した知識・技術を活用して主体的に地域貢献に取り組む態度を育てる。

③資源利用類型

- ・農畜産物の食品製造や流通に関する基礎的・基本的な知識・技術を習得させる。
- ・実践的・体験的な学習を通して、地域食品産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 育てたい生徒像

- ①基本的な生活習慣が身につけており規範意識の高い生徒
- ②専門性を伸ばし知識技術を身に付け将来の進路を活かそうと考える生徒
- ③将来農業や農業関連産業に従事し、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を備える。

4 今年度の目標 ～魅力ある学科づくりに向けて～

- ①基本的生活習慣の確立と規範意識の向上
- ②生徒の個性に応じた進路指導の充実強化
- ③農場運営に関する充実整備
- ④生徒の自己肯定感と学習意欲を向上させる各類型の指導充実及び学科行事の運営。

5 目標達成のための手立て

- ①凡事徹底（時間・身なり・社会的マナー・学習態度・あいさつなど）の指導強化。
- ②課題研究の充実や農業関連機関との連携強化（職場体験など）
- ③課題発見を心がけた日頃の安全点検や環境整備と日直、宿直の働き方見直し。
- ④魅力ある学科作りのために、農場開放・体験的行事の充実（ひまわり迷路、親子ジャグレ掘り、新入生地域見学、就業体験実習、先進農家見学、生物生産科レストラン(仮称)等）。農業クラブ活動の充実（農業鑑定、技術競技、各種発表、技術検定、リーダー研修会等）により、学科PRに努める。

6 資格・検定

日本農業技術検定、小型移動式クレーン、玉掛け、アーク溶接、ガス溶接、危険物取扱者（丙種・乙種）、ボイラー技士（2級、小規模）、情報処理検定

※農業クラブ連盟に関するものとして畜産上級技術検定、食品分析上級技術検定など

7 主な実習製品

各種野菜（果菜類・葉菜類・根菜類）、果樹類（マンゴー、パパイヤ等）、果樹苗、黒糖、豚肉、牛肉、鶏卵、農産加工製品（菓子類・パン類・ケーキ類）、畜産加工製品（スモークチキン等）

[3] 食と環境科

フードクリエイトコース

1 基本方針

- (1) 地域の産業である水産および農業について環境保全や食品製造・管理に関する技術を身につけるようにする。
- (2) 水産や海洋に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 地域の自然環境と持続的に調和した人間生活、環境の創造と保全に関する基礎的な知識を育む。
- (4) 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 コースの方針

水産の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、水産食品を主とした安全な食品製造と品質向上及び食品を安全かつ適切に管理するための資質・能力を育成する。

3 育てたい生徒像

- (1) 食品の製造・品質管理に関する知識・技術を身につけ、安全で高い品質の食品を供給できる生徒。
- (2) 自分の置かれた立場や役割を認識し協働できる生徒。
- (3) グローカルな視野を持ち、自ら積極的に自己実現を目指し進路実現できる生徒。

4 今年度の目標

- (1) 水産の見方・考え方を働かせ確かな学力を身につけさせる。
- (2) 社会発展に寄与するために必要な公共心や倫理観を身につけさせる。
- (3) 資格取得推進及び地域との連携を深め、宮古島の食品産業の発展・創造に意欲的に取り組む。

5 目標達成のための手立て

- (1) 学びの基礎診断を活用し、生徒の学習状況を多面的に評価し、指導の工夫・充実を図る。
- (2) 専門的な学びの中で、社会発展に寄与するために必要な公共心や倫理観を育むように努める。
- (3) 資格取得と地域の課題に取り組む学習を推進する。

【1年次】“自立”

- 基礎学力を向上させる
- 校則や社会のルールを守る
- 自己探求し将来を設計する

【2年次】“創造”

- 専門知識と技術を習得する
- 資格取得を目指して取り組む
- 社会に目を向け情報収集する

【3年次】“躍進”

- 専門知識と技術を生かした発展的学習に取り組む
- 現実的な進路選択に取り組む

6 資格・検定

食品技能検定第1・2・3類、HACCP基本技能検定、水産海洋技術検定、ビジネス文書検定
海洋情報技術検定（1級・2級）、ガス溶接技能講習、ボイラー技士（二級、小規模）
危険物取扱者（乙種、丙種）、アーク溶接特別教育講習、潜水士、スクーバダイビングライセンス
レスキューダイバーライセンス、EFR(救命救急)ライセンス

7 主な実習製品

マグロ油漬缶詰、カマボコ、コンブの佃煮、サンマ缶詰、ビントロ旨煮缶詰、スモークチキン
カボチャようかん、モズクようかん、紅芋ようかん、黒糖ようかん、カステラ、菓子パン
パウンドケーキ

環境クリエイトコース

1 基本方針

- (1) 宮古島の命の源である地下水保全を目指した環境保全型農業に関する知識・技術を習得させる。
- (2) 地域の基幹産業である農業生産に関する基礎・基本的な知識と技術について学習すると共に、農業の持つ多面的な機能の大切さを理解させる。
- (3) 地域の自然環境と調和した農村社会の維持および宮古島の農業資源である地下ダムの有益な利活用と共に、地域環境の創造と保全に関する基礎的な知識を育成する。

2 コースの方針

農業に関する基礎・基本的な知識と技術を習得し、自然環境に配慮した農業基盤整備や農村社会の創造に関する幅広い学習を通し、地域における環境・農業土木・造園の技術者として適応能力の育成を行う。

3 育てたい生徒像

- (1) 高い規範意識を身に付け、責任感と協調性(コミュニケーション能力)を備え主体的に行動できる生徒
- (2) 環境に配慮した開発と保全について資質能力を備えた農業関連産業技術者として貢献できる生徒
- (3) 社会貢献に関する高い意識を持ち、且つ社会人基礎力の資質を有する生徒

4 今年度の目標

- (1) 基本的生活習慣が身につくことにより規範意識の高い生徒(凡事徹底)
- (2) 専門性を伸ばし資質能力を身に付け将来の職業に活かそうとする生徒(スペシャリストの育成)
- (3) 宮古島の持続的発展に貢献し、地域産業の担い手となる生徒(グローバル人材)
- (4) 授業態度スタンダードを意識した生徒の主体的な実験・実習に取り組む授業研究を行う

5 目標達成のための手立て

- (1) 社会人として必要とされる基本的生活習慣及び規範について、教科指導を通して身に付けさせるため教職員間の報告・連絡・相談による情報連携を強化し生徒支援・指導を行う。
 - ① 常に時間を守り、身なりを整え、聞く姿勢の徹底
 - ② 生徒支援のため各部署との連携強化
 - ③ コース会の実施徹底
- (2) 生徒の実態に即した授業展開による基礎的・基本的な知識・技術の定着を行い、専門教科・科目に関連した資格取得を推進し、1年次からの一貫した資格取得指導により進路選択への意欲向上を図る。
 - ① 科目と資格の内容をリンクさせた授業の実施
 - ② 横断的な科目間連携による授業内容の共有
 - ③ 資格取得講座の実施
- (3) 農業クラブ活動による地域や産業界と連携した専門教育の推進と地域に根ざした専門教育の実践。
 - ① 産学連携によるプロジェクト学習の取組
 - ② 地域企業と連携したインターンシップの実施及び進路先の開拓
 - ③ 地域資源の活用

6 資格・検定

日本農業技術検定(2, 3級)、造園技能士国家検定(2, 3級)、建築CAD検定試験、2級土木施工管理技士(学科)国家試験、測量技術検定(上級)、小型車両系建設機械特別教育講習、小型移動式クレーン運転技能講習、玉かけ技能講習、危険物取扱者(乙種、丙種)、アーク溶接特別教育講習、ガス溶接技能講習、日本語ワープロ検定(1級~4級)、情報処理技能検定(1級~4級)

7 主な実習製品

有機質肥料(Bio・P)、野菜(ナス、ダイコン、トウモロコシ等)、各種草花(苗)、観用植物、庭園樹木、ブーゲンビレア、木製製品(テーブル・イスなど)

スローガン：宮古島の水を守り！土を守り！生活に癒しを創造する！

[4] 生活福祉科

1 基本方針

家庭・福祉・農業に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、人と自然を思いやる豊かな心を育成し、関連産業に従事できる能力と態度を養成する。郷土の生活文化を習得させ、地域社会に貢献できる人材を育成する。

2 類型の方針

(1) 福祉類型

福祉と高齢者の介護に関する知識と技術を習得させ、高齢者の生活支援と福祉の充実に寄与できる人材を育成する。農業の学習を通して食の意義を理解し、食育推進活動について学ぶ。健康の保持増進と健全な食生活についても学び、生活の質の向上や改善を図る能力と態度を育てる。

(2) 生活デザイン類型

家庭に関する知識と技術を習得させ、地域の子育て支援や生活関連産業に寄与できる人材を育成する。農業の学習を通して食の意義を理解し、食育推進活動について学ぶ。健康の保持増進と健全な食生活についても学び、生活の質の向上や改善を図る能力と態度を育てる。

3 育てたい生徒像

- ① 家庭・福祉・農業に関する基礎的・基本的な知識と技術の習得
- ② 人と自然を思いやる豊かな心の育成
- ③ 地域社会に貢献できる人材の育成

4 今年度の目標

- ① 学習指導の強化
- ② 生徒指導の強化と基本的生活習慣の確立
- ③ 進路指導の強化
- ④ 行事への積極的な取り組み
- ⑤ 地域と連携した教育の推進

5 目標達成のための手立て

- ① 学習指導を強化
 - ・生徒の実態に応じた指導方法を工夫し、基礎・基本の定着を図る
 - ・資格取得を推進し、意欲向上に繋げ、検定・資格を習得させる
 - ・学級担任、教科担任と連携し、単位未修得生徒の指導の強化を行う
- ② 生徒指導を強化し、基本的生活習慣の確立
 - ・身なり、勤怠指導を強化する
 - ・言葉遣い、マナーを育成する
 - ・保護者、関係部署と連携し指導する
- ③ 進路指導の強化
 - ・進路の早期決定を目指し、進路指導部、関連部署と連携して指導する
 - ・学科集会で意識を高める
- ④ 行事への積極的な取り組み
 - ・学科行事、校内外の行事、大会への参加
- ⑤ 地域と連携した教育の推進
 - ・地域の専門職による講話、ボランティアやイベント活動に取り組みせ、学習意欲を高める

6 資格・検定

家庭科技術検定（食物調理・被服製作・保育） サービス接遇検定 日本語ワープロ検定
情報処理技能検定 介護職員初任者研修（資格取得については外部委託）

[5] 商業科

1 基本方針

- ① 商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。
- ② ビジネスに対する望ましい心構えや理念を身につけさせる。
- ③ ビジネスの諸活動を主体的・合理的に、かつ倫理観をもって行い、経済社会の発展に寄与する能力と態度を育てる。

2 類型の方針

- ① 総合ビジネス類型
ビジネスに関する幅広い知識・技術を習得させ、地域と密着しながら、地域の活性化や地域産業の発展に貢献できる人材を育成する。
- ② 会計ビジネス類型
会計分野に関する幅広い知識・技術を習得させ、事務処理能力を身に付けることで、企業で即戦力として活躍できる人材を育成する。
- ③ 情報ビジネス類型
ビジネス情報分野に関する幅広い知識・技術を習得させ、情報化社会でビジネスを展開できる実践的な ICT 活用能力を身につけ、地域ビジネスの情報分野を担う人材を育成する。

3 育てたい生徒像

地域社会の経済に貢献する生徒

4 今年度の目標

- ① 商業科目の基礎的・基本的な知識と技術の習得
- ② 各種資格・検定取得者の増加
- ③ 生徒指導の強化
- ④ 進路指導の強化
- ⑤ 服装容儀指導の強化
- ⑥ 商業科の活性化

5 目標達成のための手立て

- ① 各科目において、生徒の理解度を確認し、個々に対応した学習指導及び生徒の学力向上を目指した授業改善に取り組む。
- ② 履修科目に対応した各種検定試験を受験させ、目標とする検定級の合格を目指す。
- ③ 基本的な生活習慣の確立や規範意識の向上を目指し、勤怠不良等の事前対策として、保護者や職員間の連携を強化する。
- ④ 職業人としての意識を高めるとともに、進路に対する早期の意識付けを図る機会を設ける。
- ⑤ 学習活動を通して、ビジネス社会を意識した身だしなみやマナーを指導する。
- ⑥ 学科行事や対外活動への取り組みの強化を図る。

6 資格・検定

- ① 全国商業高等学校協会主催
○ビジネス計算実務検定 ○簿記実務検定 ○ビジネス文書実務検定 ○商業経済検定
○情報処理検定 ○英語検定
- ② その他(日本商工会議所、実務技能検定協会等)